

来日するミャンマー人が急増

2024年7月31日

ミャンマービジネスサポートデスク 西垣 充

来日するミャンマー人が急増しています。出入国在留管理庁が公表しているデータによれば、2022年12月時点で在留届のあったミャンマー人の数は56,239人でしたが、2023年12月には86,546人と約3万人増えており、37,246人であった2021年12月と比べれば約2.3倍に増えています。資格別で見ると、技術・人文知識・国際と呼ばれる所謂技人国ビザでの滞在が前年比190%増、特定技能が前年比526%増、留学が前年比193%増と全体的に増えていることがわかります。

2024年3月末に出入国在留管理庁が発表した特定技能在留外国人数は232,056人でしたが、うちミャンマーは国別で4位となる15,073名。資格別で見れば最も多いのが介護分野の4,730名。続いて飲食料品製造業分野の2,839名、外食分野の2,219名となっています。2024年7月現在、ミャンマー国内における特定技能試験は介護、建設、農業、宿泊、外食の5業種が行われています。

独立行政法人国際交流基金などが主催し、毎年7月と12月に全世界で行われる日本語検定試験(JLPT)の、ミャンマーでの受験申請者数は2023年度は202,737人と、海外での国別受験者数では中国の319,583名に次ぐ2番目に多い人数でした。3番目に多い104,024人の韓国の約2倍にも上ります(4番目は台湾の78,048人)。在留外国人として最も多いベトナム(63,482名)の3倍強となっています。中国や韓国、台湾については、日本への就労や技能実習などを目指す人数は少ないと想像できることから、人手不足が深刻な日本にとって、ミャンマーは注目に値する国の一つとなっています。

以上